

学習者の実態を読もう

09

目標

- ・ 学習用参考図書の内容を報告しあう
- ・ 報告しあった内容をふまえて具体的な学習指導方法を考える

チーム学習

09-1

学習用参考図書の内容を報告し合う

分担して読んだ学習用参考図書の内容を他のメンバーと報告しあって、学習用参考図書内で示されている問題を理解しましょう。

- ①まず一人ひとりが分担して読んだ内容を要約したものを掲示板に書き込みましょう。
- ②他の人が書き込んだ要約を「学習用参考図書を読む」にまとめましょう

チーム学習

個人学習

読む

09-2

学習者の実態をふまえた学習指導方法を考える

学習用参考図書の内容から読み取ったデータをふまえて、多様な学習者一人ひとりの国語や算数・数学の学力を高めるために、あなたならどのように取り組むかの個人課題をたてて、ショートレポートにまとめてください。

※「09-2」をよく読んでチームで協力して進められるところや、個人で進めることができる部分はどんどん進めてください。



Web 提出

ショートレポート2

09-2で挙げられた項目に沿って、多様な学習者一人ひとりの国語や算数・数学の学力を高めるために、具体的にどのように取り組むかをショートレポート2(A4 2枚以上)に各自でまとめて提出しなさい。

※提出期限：学習支援システムで確認すること



Web 公開

ショートレポートを掲示板に公開すること。

チームメンバーからコメントをもらうためです。

学習用参考図書を読む

チーム学習



- 学習用参考図書で分担して読んできた部分の要約を掲示板で報告しましょう。それぞれの報告の要点を次の記入欄にまとめましょう。

チーム番号() 月 日() 氏名()

1 担当者()

2 担当者()

3 担当者()

4 担当者()

5 担当者()

ショートレポート2の内容

執筆要項



●● ショートレポート2の執筆ルールを説明します

ショートレポートには最低限以下のような項目に整理してまとめてください。なお、それ以外に必要なと思うことを書いても構いません。

- レポートの項目 A 「多様な学習者」をどのように定義するか
- レポートの項目 B 「多様な学習者の主体的な学び」のメタファー(隠喩(いんゆ))
- レポートの項目 C 具体的な学習指導方法のテーマ
- レポートの項目 D 学習指導方法のモデル

以下は、それぞれの項目の詳細な説明です。よく読んでください

1. 「多様な学習者の主体的な学び」をひとことで表すと？

あなたの考える「多様な学習者の主体的な学び」に対するコンセプト(基本理念)を実現するために、チームの他のメンバーがすぐに理解できるようにメタファーで喩(たと)えて表現しましょう。

* 例 *

スウェーデンの Dr. ヘンリック・ハンソセンが考えたメタファー

「ボストンマラソン」や「ホノルルマラソン」のようなものである。

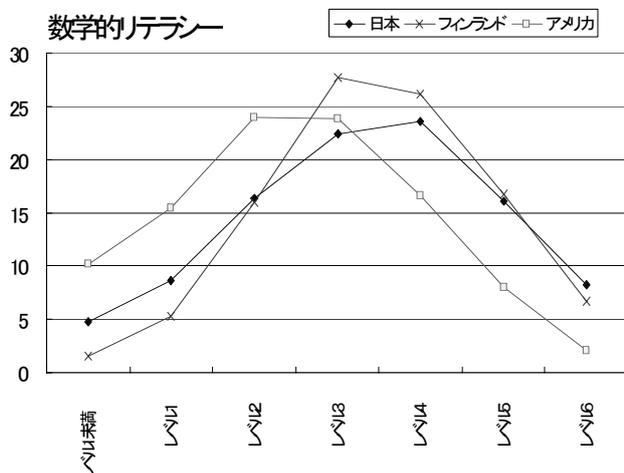
- ・ 誰でも参加できて、それぞれが自分に適した目標を決めることができる。タイムを競いたい人は先頭集団で走ろうとするし、参加することに意義を見出している人は時間のことを気にせずに休みながらもゴールを目指している。

ドイツの Dr. ヴォルタ・クーゲマンが考えたメタファー

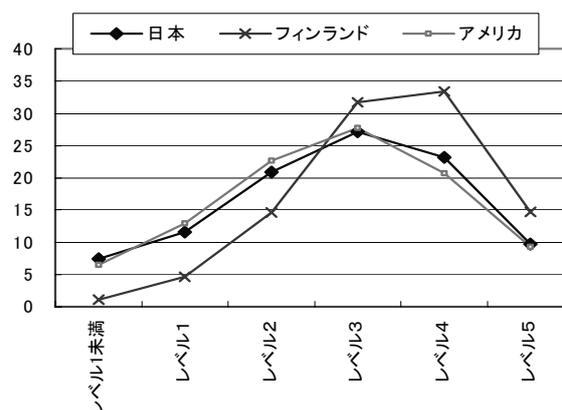
熱気球のようなものである。

- ・ 熱気球には頭の部分と下の部分があるが下の方から熱風を送ることによって気球全体が上昇する。フィンランドが学力の国際比較で世界一になったのは、高位の子どもの割合は日本とあまり変わらないが、低位の子どもの割合が少ないからである。

数学的リテラシー



読解力における習熟度レベル別の生徒の割合



佛教大学「教育方法学」の教材開発者である西之園晴夫のメタファー

クラス全体の学習は醸造技術のようなものである。

- ・学習している過程は金工や木工のように外から力を加える加工技術ではなく、お酒や醤油などのような発酵技術に喩えられる。酵母菌による発酵にタイミングよく対応し、絶妙な発酵プロセスを予測してそれに合わせることで美味しいお酒ができる。

チーム学習はパラグライダーのようなものである。

- ・地形や風向、樹木の様子、トンビなどが飛んでいる様子などさまざまな状況から判断し目に見えない上昇気流をつかまえることで、自由自在に長時間、長距離を飛び続けることができる。子どもの目に見えない状況を推測できることが大切である。

■レポートの項目A 「多様な学習者」をどのように定義するか

学習者の何が「多様」になっているのか。なぜ「多様」になったのか。

私が考える「多様な学習者」とは・・・

「学習者が多様になった背景」は、次のようなことである。

■レポートの項目B 「多様な学習者の主体的な学び」のメタファー(隠喩)

私が考える「多様な学習者が主体的に学ぶ」とは・・・

(のようなもの) である。

その理由は

2. 具体的な学習指導方法のテーマ

■レポートの項目C 具体的な学習指導方法のテーマ

a チームの未来の学校の校種

b

c

項目Aを基本として、()校の()年生の(国語または算数・数学)教育の具体的な学習指導方法を構想して提案する。

私の提案する具体的な学習指導方法のテーマ

()教育における()の向上のための
 ab 対象校種と学年 c 教科(国語 or 算数・数学) d 具体的な学力(例: 読解力)

()の取り組み

e 学習指導方法

例 小学校4年生の国語の読解力の向上のため、朝の1時限目に自分が選んだ本の黙読をして感想文に書く取組みをする。

3. MACETO モデルに沿って学習指導を具体化して説明する

授業設計の方法と学習指導の具体案

授業を設計する方法はさまざまなものが提案されてきましたが、これまでの授業設計では学習指導要領に決められた教育目標や、教科書に示されている教育内容から始めるのが普通です。ところがこの方法では子どもの実態よりも教育目標や内容が優先され、とかく教え急ぎになりがちです。しかし、これからの時代には多様な子どもであっても、それぞれの能力や学力に対応した学びを提供することが必要です。そのような学びは、急速に進歩している情報通信技術 ICT (Information and Communication Technology) が活用できる時代では実現可能です。それは教師がコンピュータやインターネットを活用できるからです(子どもが活用することが本質ではない!)。教育の進歩の段階は、医学と比較するならば昔の医者のように個人で判断し治療する段階であり、つぎの段階は専門性を生かして難しい問題であってもチームで解決することです。

多様性に対応できる授業を実現するために、子ども一人ひとりが学ぶ意味を十分に理解し主体的に学習するようにすることです。つぎのような手順で具体化することができます。そのためには、子どもが自分の学習をしっかりと意識できることです。

■レポートの項目D 学習指導方法のモデル

Meaning 学ぶ意味：自分から学びたくなるような意味、何のために学ぶのか

Action 学習活動：どのように学ぶのか、どんな活動をするのか

Content 学習内容：学習成果を習得するためにその過程で何を学ぶ必要があるのか、
どんなスキルを習得する必要があるのか

Environment 学習環境：どんな環境で学ぶのか、どんな設備が必要か

Tool 学習用具：何を使って学ぶのか

Outcome 学習成果：学んだ成果をなにで表現するのか，どんな能力を習得するか

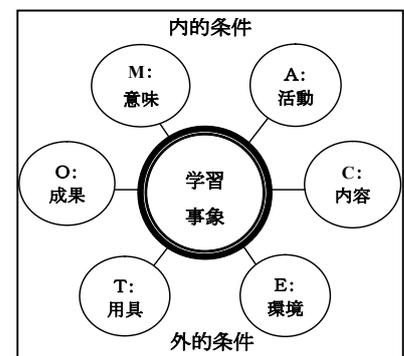
参考資料

- 1 学ぶ意味 (Meaning) は、学びたい (知りたい、できるようになりたい)、学習成果への達成感 (やったー)、充実感、満足感など

学ぶ意味 例：問題意識 (環境問題、平和問題など)、
資格取得、意味理解の不足、教職必修科目 など

- 2 学習成果 (Outcome) には 2 つの側面がある。身につけた能力、習得された内容などの学習成果は内的成果であり、作品や記録など外に現れるものは外的成果と考えてよい。

学習成果 例：計算できる、要約できる、指摘できる、表現できる、
展示会の作品、レポート など



- 3 学習活動 (Action) は、具体的にどのようにして学習成果 (Outcome) を生むか、そのためにどのようなスキルや能力を学ぶ必要があるのかという学習内容 (Contents) を習得するために必要な活動である。

学習活動 例：(学習内容) を発表する、計算する、説明する、応用する、比較する など

- 4 学習内容 (Contents) は、学習成果 (Outcome) を生むために習得することが必要なスキルや能力である。学習者がすでに知っている内容は内的条件であるが、メディアに収録されている内容、教科書に書かれている内容、あるいは教師が説明する内容は外的条件となる。学習は内的条件としての学習内容と外的条件としての学習内容が、お互いに作用し合って進む。

学習内容 例：辞書の引き方、コンパスの使い方、インターネット、新出漢字、公式 など

- 5 1 から 4 までを充実させるために必要な学習環境 (Environment) と

- 6 学習用具 (Tool) の準備を計画する。

学習環境 例：教室、パソコン教室、インターネット、図書館、展示用の壁、 など

学習用具 例：チョーク、ノート、単語帳、パソコン、計算器、模造紙、付箋紙、シール など